



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.31 2008. 4



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● 海外活動報告	
アジア生産性機構 イノベーションと競争力フォーラム	2
大連理工大学 国際ワークショップ	2
国際 MOT 学会 2008 年次総会	2
インドでの企業経営・知的財産活動	2
サービス・サイエンス・国際コンファレンス	2
● イベント報告	
中国科学院科学技術研究管理研修視察団の来訪	3
ハイテクベンチャーと創業支援型キャピタル	3
フィンランドにおける産学連携による共同研究開発	3
● コラム	
ヨーロッパビジネススクールとルガーノ大学での発表	3
● 訃報	
黒川晋先生 ご逝去	4
● 報告	4
● 最近の動き	4
● イベント予定	
MOT 特別セミナー	4
研究・技術計画学会 国際問題分科会 5月例会	4
● 連絡先	4

海外活動報告

アジア生産性機構 (APO) イノベーションと競争力フォーラム(2008年3月3-6日マレーシア クアラルンプール)



渡辺センター長は、クアラルンプールでの標記フォーラムに8カ国8専門家の1人として参加し、アジア14カ国35人の政府・産業界のリーダーとアジア固有のインスティテューションに即したイノベーションに根ざした競争力戦略について討議しました(本Newsletter 2007年11月号ご参照)。

大連理工大学大学「知識糾合とイノベーション」国際ワークショップ (2008年3月9-10日 中国 大連)



渡辺センター長は、大連理工大学大学での標記ワークショップに出席し、SIMOTでの研究をベースに、“Co-evolutionary Domestication for Knowledge Integration and Innovation”と題する発表を行い、共同研究パートナーの同大学経営大学院教授・知識科学技術研究センター所長の王教授(院士)率いるイノベーション研究グループと活発な討議を行いました(本Newsletter 2007年11月号ご参照)。同ワークショップには、



SIMOTの趙偉琳 若手研究者も出席し、“The Role of Cross-Firm Network in an Industry Cluster in Inducing Knowledge Integration and Innovation”と題する発表を行いました。

国際MOT学会 2008年次総会

(2008年4月5-9日 アラブ首長国連合 ドバイ)

渡辺センター長は、17回目を迎える標記年次総会で理事会に出席するとともに、SIMOT研究をベースに、“Hybrid Management of Technology for Co-evolutionary Domestication toward an Enterprise 2.0 Stream”と題する発表を行いました。同総会には、SIMOTの申宰浩 若手研究者も出席し、“Emerging Dynamism of New Functionality Development in Web 2.0”と題する発表を行いました。今次総会では、600件の登稿のうち240件が採択されて、世界40カ国の多彩な逸材がMOTを軸に充実した発表・討議を行いました。



インドでの企業経営・知的財産活動に関する授業および特別講演 (2008年3月6-13日 インド)

急速な成長を遂げているインドでは、知的財産権に関する関心も急激に高まっています。インドには、4つの特許庁が存在しますが、それぞれの法の運用にばらつきがあり、審査結果が異なります。12億の巨大な人口と、カースト制度と共に構築されてきた権力構造ゆえ、組織改革も容易ではありませんが、知的財産行政の充実に加え、知的財産に関する教育もスタートしています。SIMOTセンター員 田中義敏准教授は、インド工科大学 Department of Management Studies の Prof. Sudhir K. Jain、および、デリー大学法学部 Prof. S.K. Verma のご好意により、企業経営と知的財産活動に関する授業および特別講演を行いました。1947年にイギリスから独立して以来、IT産業を除いて、政治経済的にも独自路線を歩んできたインドにとって、グローバル化に全力投球していくか、多くの貧困層を有する自国内のマーケットの醸成に力を入れていくか、我が国産業界にとっても注視しながらの戦略策定が必要になります。



サービス・サイエンス・国際コンファレンス

(2008年4月17日-18日 北京)

SIMOT 特任教授 菊池隆は、北京にて IBM および Harbin Institute of Technology の協賛の下開催された 2008 International Conference on Service Science に参加しました。会議は、IBM の中国研究所のディレクターや技術戦略のVPらによる基調講演およびサービス・サイエンス、サービス・マネジメント、サービス・エンジニアリング、Industry Practice、サービス教育の5部門により構成されていました。多彩な報告がありましたが、インスティテューショナルな視点を盛り込んだ研究は、極めて限定されているのが現状でした。僅かにサンホセ州立大学の Stephen K. Kwan 博士が提唱する「サービスシステム」の概念にインスティテューションに近い考え方が組み入れられており、またメキシコのビジネススクール EGADE で Service Management Research & Education のチェアを勤める Javier Reynoso 博士は、自国の土壌に適したサービス教育のあり方を強調されていました。インスティテューショナル・サービスはまだ未開拓な領域です。



イベント報告

中国科学院科学技術研究管理研修視察団の来訪 (2008年4月11日 東工大 西9号館コラボレーションルーム)



何岩 中国科学院本部事務局長を団長とし、中国全土の代表的 18 研究所の所長・副所長クラス 18 名で構成する研修視察団が本学に来訪し、日本の官民のイノベーション政策・戦略や技術の産業化について、2 時間余にわたり渡辺センター長と意見交換を行いました。一行はとくにハイブリッド技術経営に関心を示し、日本同様中国固有の強みを明確に認識して海外からの学習との融合のあり方を追求しなければならないとの見解を示しました。

視察団は、引き続き、文科省、理研、産総研、東大・慶応大、およびトヨタ・ソニー等ハイテク企業を歴訪し、4月20日に帰国しました。

ハイテクベンチャーと創業支援型キャピタル

(2008年4月14日(月) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会 4 月例会では、数々のベンチャーキャピタル (VC) を手がけている増田一之氏が、「ハイテクベンチャーと創業支援型キャピタル：日本におけるキャピタルによるベンチャー創業支援の状況」というテーマでご講演されました。講演では、ハイテクベンチャーの創業を支援する VC の役割について、特に創業前の VC の支援機能を分析し、リスクマネー供給および起業家機能の補完の重要性を説くとともに、VC の育成における課題等について持論を開陳されました。

フィンランドにおける産学連携による共同研究開発

(2008年3月31日(月) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会 3 月例会では、フィンランド・ユバスキュラ大学数理情報工学部助教 ユホ・ヘッキニン氏に、「フィンランドにおける産学連携による共同研究開発」とのテーマで講演していただきました。同氏は、2 月に行われた SIMOT 国際シンポジウムの基調講演者アイノ・サリネン氏 (本 Newsletter 2008 年 3 月号ご参照) が学長を務めるユバスキュラ大学と東工大との協力協定に基づき、4 ~ 6 月の間、東京工業大学にて客員研究員として滞在しており、独自の研究の他、本拠点を含む東工大とユバスキュラ大学の学生・教員交流の促進奨励の任を拝しています。本講演では、ユバスキュラ大学が進めるノキアをはじめとした国際最先端 IT 企業との交流の紹介を通じて、産学連携の研究開発の効果・問題点等について議論しました。

コラム

「ヨーロッパビジネススクールとルガーノ大学での発表」 SIMOT ポスドク Yuosre Badir



2008 年 4 月 7 日から 11 日まで、私は欧州の 2 大学で開催されたワークショップとセミナーに参加しました。訪問の目的は SIMOT の主な概念の 1 つ「イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズム」を紹介し、この概念に関して、欧州の研究者と意見を交換し、知識を共有することでした。

最初のワークショップはドイツの International University の European Business School (EBS) で行われました。EBS はドイツで最も古い私立大学であり、国内最大の教授数を誇る三校のうちの一校です。次のワークショップはスイスのルガーノ大学の経営学部で開かれました。

それぞれの大学で、私は 2 つのプレゼンテーションを行いました。最初のプレゼンテーションはインスティテューション、特に国家のビジネス文化が新製品開発プロジェクトに取り組む戦略パートナー間の関係に与える影響についてでした。このプレゼンテーションでは、「戦略パートナーの関係が継続する期間」、「情報と知識の共有」ならびに「パートナーのオポチュニスティックな振舞いを制御するメカニズム」に対して国のビジネス文化がどのような影響を与えるかを説明しました。私はアメリカの戦略的提携と、日本のそれを比較し、欧州の研究者との議論は、日本とアメリカの戦略的提携とヨーロッパのその比較に集中しました。

2 番目のプレゼンテーションでは、戦略パートナーと共に行われる新製品開発プロジェクトに内部組織設計が与える影響について議論しました。

計 報



SIMOT 特任准教授を務めていただいております、米国ドレクセル大学の黒川晋准教授は、4月6日午後3時フィラデルフィアで心不全のため急逝されました。享年53歳でした。

黒川先生は、神戸大学で経営学をご専攻の後、渡米され、1980年代から日本型経営・技術経営の訓導者として多くの逸材を育てられ、また世界的に注目される論文をいくつもまとめられ、まさにSIMOTの狙いを地で行く先駆的研究者として嘱望されていたところであり、SIMOTにとって、これ以上の痛手はありません。先生は、また柔道家としても、大学・地域で尊敬を一身に集めておられ、多くの弟子に稽古をつけられた直後の悲報に、全米から駆けつけた葬列への出席者の涙を誘いました。黒川晋先生のご冥福を心からお祈りします。

(センター長 渡辺千仟)

報 告

文部科学大臣「科学技術省」受賞

(2008年4月15日 虎ノ門パストラル)

渡辺センター長は、今般、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞されました。受賞は、「イノベーションの経済社会効果解析技術の振興」に対するものです。

最近の動き

● 海外出張

渡辺 4月25日～5月7日 ウィーン (IIASA)

5月27～30日 北京 (中国 清華大学との交換授業)

6月1～3日 シンガポール (国立シンガポール大学(National University of Singapore: NUS) 特別講義)

イベント予定

MOT 特別セミナー

日 時 5月13日 (火) 14:00～16:00

場 所 東工大 大岡山キャンパス 西9号館デジタル多目的ホール

主 催 イノベーションマネジメント研究科 (後援 SIMOT)

テーマ 『グローバル競争に打ち勝つ技術経営』

概 要 技術力を基にグローバルに事業を発展させる経営戦略・技術戦略を実践されている坂根コマツ会長、秋元武田薬品工業常務を講師としてお迎えし、セミナーを開催いたします。詳細は、http://www.mot.titech.ac.jp/data/event_2008_05_13.htmlをご参照ください。

問い合わせ先: イノベーションマネジメント研究科事務室 TEL: 03-3454-8910 Mail: mot.titech@gmail.com

研究・技術計画学会 国際問題分科会 5月例会

日 時 5月14日 (水) 18:00 - 20:00

場 所 東京工業大学 百年記念館 第2会議室

テーマ 日欧多国籍企業の海外からの技術吸収能力：米国の研究開発子会社の自主性とコントロールのバランスの重要性について — インスティテューショナル技術経営学への示唆

講 師 新井 聖子 氏 (カリフォルニア大学バークレー校 ハース・ビジネス・スクール 客員研究員)

● ● 発 行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム

「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51

東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
西9号館 208B号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>

編集者: 菊池 隆